

第11回エコツーリズム大賞 受賞団体の活動概要

【大賞】 1件

○富士山登山学校ごうりき(株式会社 合力) (山梨県富士吉田市)

2002年に設立。第2回エコツーリズム大賞(平成18年度)では特別賞、第5回(平成21年度)では優秀賞を受賞。富士山全域で、オールシーズン・少人数制にこだわったエコツアーを開催している。マストツアーが主流であった富士登山において、先駆的・持続的にエコツアーを開発・実施。安全管理やきめ細かなガイドンス、配慮が行き届いた専門性の高いツアー体制を継続し取り組んでいる。地域活性化の面においても、街中にある神社や吉田口登山道を活用し、夏季登山時期以外の観光客の集客を向上させ富士山地域の活性化に繋げている。

【優秀賞】 2件

○湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部こせい (滋賀県高島市)

第8回エコツーリズム大賞(平成24年度)では特別賞を受賞。湖西地域全体を「びわ湖淡水文化博物館」とみなし、歴史・自然・生活文化・観光施設を紹介するウォーキングイベントを開催。竹林再生整備体験をエコツアープログラム化し「新竹取物語」として創出。子どもから高齢者まで幅広い年代が参加するツアーとなり、継続して地域の魅力を伝えている。

○座間味村ホエールウォッチング協会ざまみそん (沖縄県島尻郡座間味村)

1991年の設立当初からホエールウォッチング時の自主ルールを制定しツアーを行う。座間味村海域におけるザトウクジラの保護とホエールウォッチングの振興を図ると共に、協会会員相互の連絡と協調を図りながら、座間味村の観光発展に寄与することを目的とし、継続的な活動を行っている。

【特別賞】 6件

○上市町かみいちまち (富山県中新川郡上市町)

役場職員のエコツーリズム推進員を中心に行政主導でエコツーリズム推進の取り組みを始め、地域にすでにある価値の再発見とモデルプログラムづくりを積極的に進めてきた。2014年、幅広い顔ぶれが集い「上市まちのわ推進協議会」を設立。「自然観光資源利用活性化部会」「自然環境保全推進部会」「エコツーリズム普及啓発部会」の3つの部会をエコツーリズム推進母体として活動している。

○おんたけアドベンチャー(長野県木曾郡王滝村)

1984年の長野西部地震時に形成された「自然湖」で活動を行う。地震から20年間放置されゴミが散乱していた自然湖を、カヌーツアーを行うことにより村内外への認知度を高め、貴重な自然環境を守り保全活動を続けている。自然が再生復活をしていく様子を感じ取りつつ、森林浴を楽しめるツアーを行っている。

○くまの体験企画(三重県尾鷲市)

熊野古道伊勢路の地域課題解決を目的として、エコツーリズムを推進するコミュニティ・ビジネスとして事業を行う。地域資源の発掘保全ツアーなどを催行。熊野古道と町なかを繋ぐツアーを定着させ、商店、ギャラリー、休憩処などをコースに入れ、ツアー客と地域住民との接点を増やしている。

○みやづせや宮津世屋エコツーリズムガイドの会(京都府宮津市)

宮津市エコツーリズム推進協議会の活動を引き継ぎ、古民家を拠点に里山を活動場所としてエコツアーを開催。地域を「里山文化ゾーン」ととらえ、その価値をパンフやWEBを通じて発信。教育機関とも連携し、小学校の総合学習に利用されている。

○いしづちさんけい愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会(愛媛県松山市)

西日本最高峰「石鎚山」を中心とする石鎚国定公園を活動場所としている。エリアが2市町にわたることから、地元行政、エコツアー事業者、山岳関係者が集う場所として協議会を組織し、エコツアー造成、プロモーションなどを一体的に進めている。ガイド不足を解消するため人材育成も行っている。

○エコツアーふくみみ(沖縄県石垣市)

少人数制の自然体験プログラムを開発。幼児を連れた家族連れも安心して参加できるメニューを提供している。また、地元の学校と連携したサンゴ礁保全教育、中学生を対象とした外来生物の学習や地域の人たちと協力し自然再生プログラムなどにも取り組んでいる。

【特別継続賞】 1件

○かいとうゆうみん海島遊民くらぶ(有限会社 オズ)(三重県鳥羽市)

第5回エコツーリズム大賞(平成21年度)にて大賞受賞。

漁業者との連携した体験プログラムの強化などにより、鳥羽市が漁業と観光の連携を打ち出す「漁観連携」に大きな役割を果たしている。

また、平成20年から開始してきた小学校と連携した島っ子ガイド育成事業は、地域の取組にまで発展。

継続的な取組による地域との信頼関係と情報力により、地域全体のエコツーリズムの質の向上に努めている。